



**きっちりアメーバ**

**おはなし くどうじゅん**

アメーバの、ぷよよんくんは、  
いつもぷよぷよしています。

ある日、ぷよよんくんは  
つぶやきました。

「ああボクも、みんなみたいに  
きっちりしないと。」



ぷよよんくんは、  
おとうふのきぬきぬさんに  
あいました。

きぬきぬさんは、ぷよぷよなのに  
きちんと、しかくて、しろいのです。

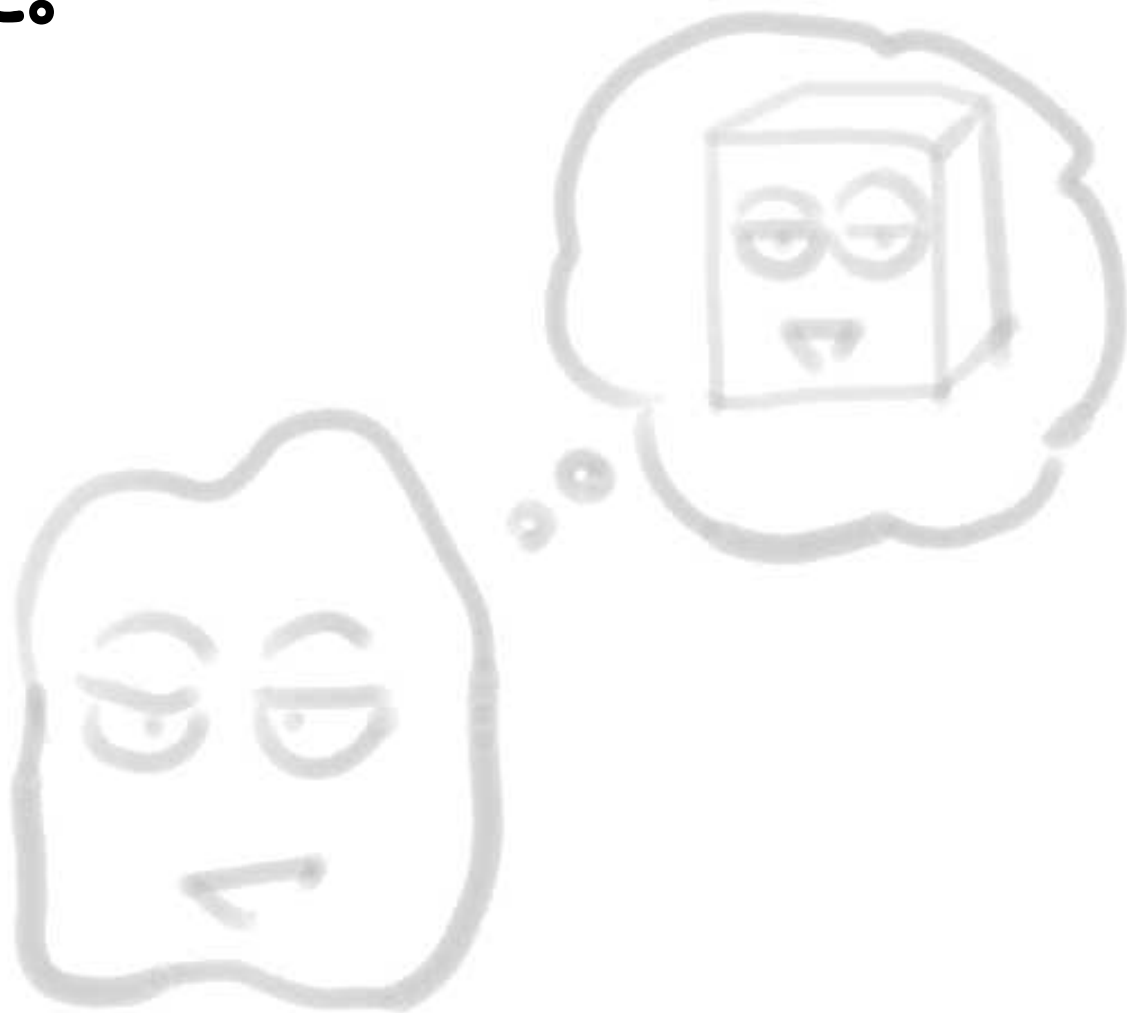
ぷよよんくんは、つぶやきました。



「どうしてボクは、きぬきぬさんみたいに  
しかくも、しろくも、ないんだろう？」

ふよよんくんは、がんばって  
しかくなろうとしました。

ふよん



だけど、すぐにもとどおり  
ふよふよのかたちに、もどってしまいました。

ビー玉のぴかぴかさんに  
あいました。

ぴかぴかさんは、すきとおってるけど  
まるくて、かたくて、キレイなのです。

ふよよんくんは、つぶやきました。



「どうしてボクは、ぴかぴかさんみたいに  
まるくも、かたくも、ないんだろう？」

ふよよんくんは、がんばって  
まるくなろうとしました。

ふよん



だけど、すぐにもとどおり  
ふよふよのかたちに、もどってしまいました。

ぷよよんくんは、いろいろな人にあいました。

みんな、じぶんのかたちをもっていて、  
きちんとまいにち、おんなじかたちなのです。

なのにアメーバのぷよよんくんには、  
じぶんのかたちがありません。

ぷよん。



ぷよよんくんは、なんだかかなしくなってきました。  
「ぼくもきっちりしなくっちゃ」

いけのほとりには、せんにんのおじいさんが  
すんでいて、いつもつりをしています。

なんでもしっているおじいさんです。

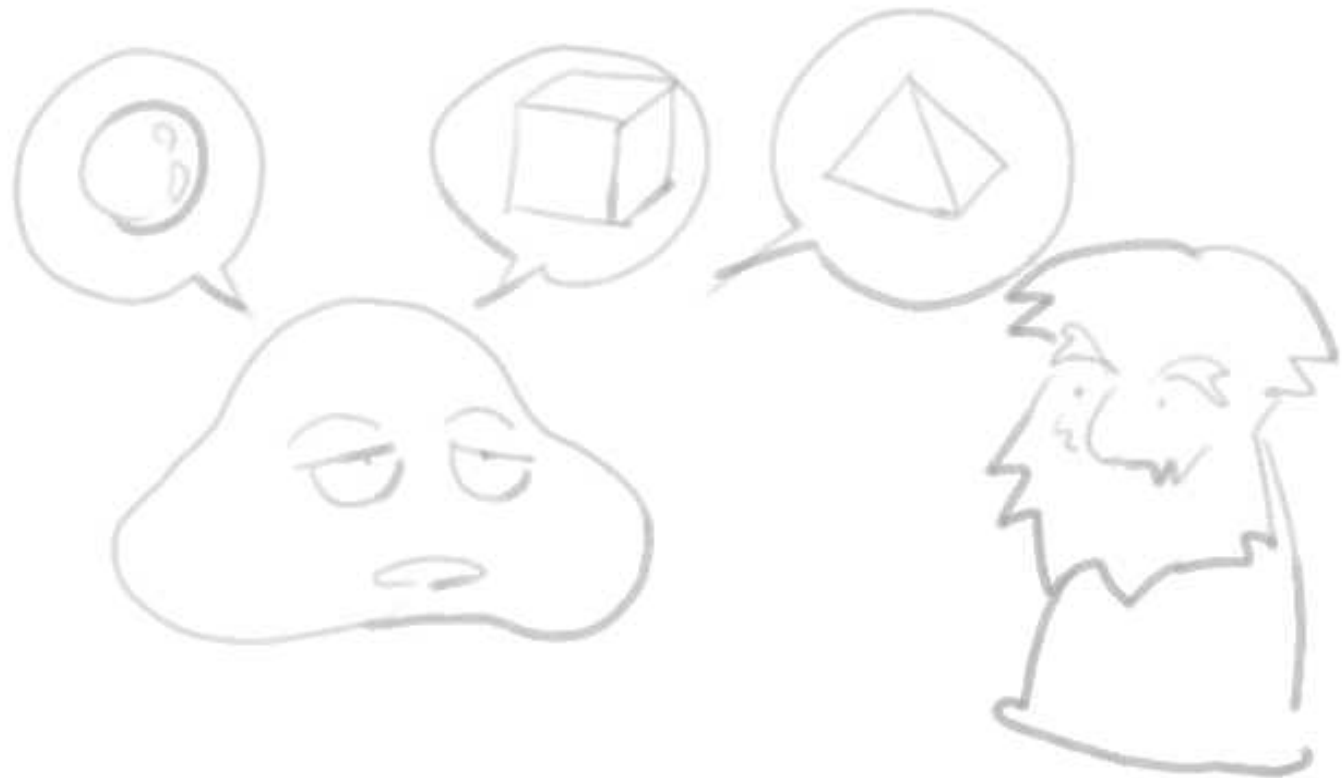


ぷよよんくんは、おじいさんにきいてみました。



「まるいひとや、しかくいひとや、  
さんかくのひとがたくさんいて  
みんな、きっちりしています。

ぼくは、どうしてまるくなれないんでしょう？  
ぼくは、どうしてしかくくなれないんでしょう？  
ぼくは、どうしてさんかくになれないんでしょう？」



おじいさんは、こまったかおをしました。

「みんな、みんな、ちがうかたちをしている。  
きみは、ぷよよんだから、ぷよぷよしている。  
それじゃあ、だめなのかい？」



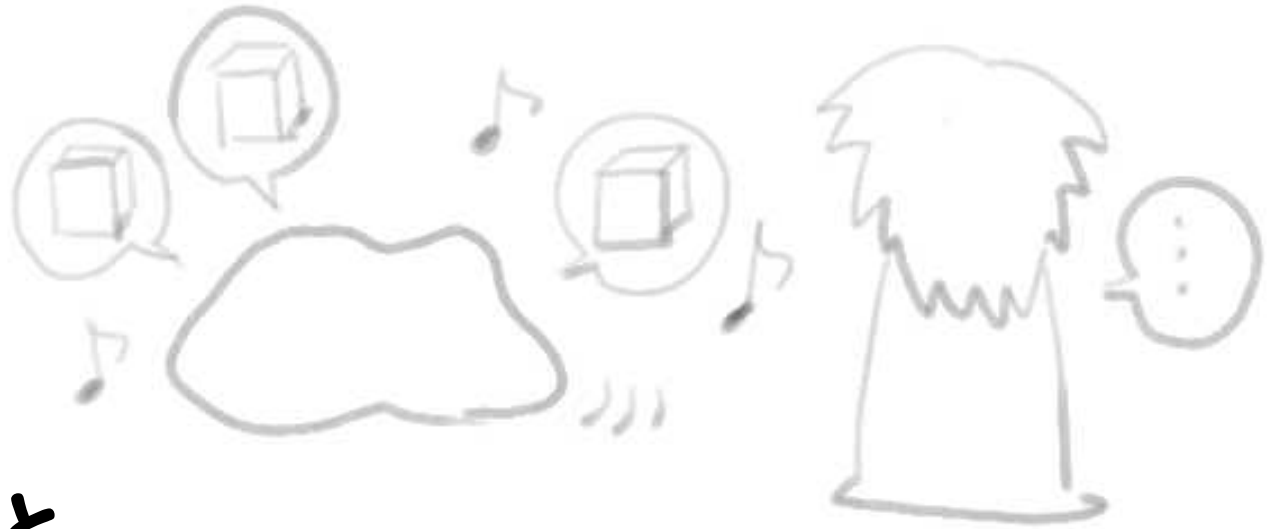
ぷよよんくんは、かなしそうに、いいました。

「だけど、ぼくも、きっちりしたいんです。  
みんなみたいに、きっちりしたいんです」

おじいさんは、かんがえました。

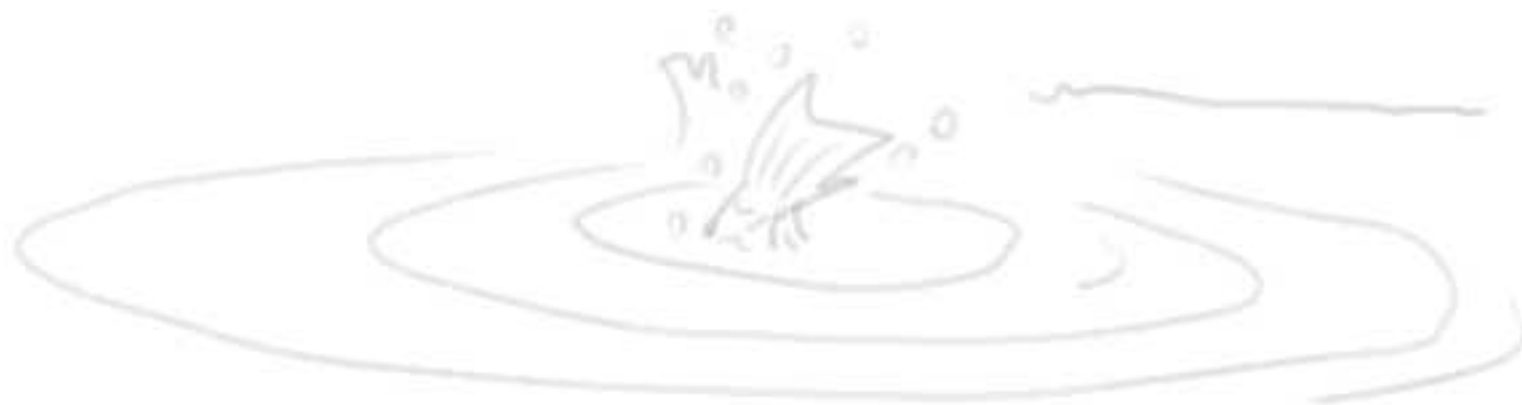
「どうしてもというのなら、  
しかくなるほうが、かんたんだろうな。  
まるくなるのは、とてもとてもむずかしいから。  
でも、あせらずにゆっくりやるんだよ。」

ぷよよんくんは、げんきになっていました  
「わかりました。しかくくなってみます！」



ぷよん、ぷよん、と  
げんきよく、でかけていきました。

ぷよよんくんが、たちさったあとで  
おじいさんは、ひとりごとをつぶやきました。  
「みんな、ほんとうは、まあるいんだけど…。  
ぷよよんくんには、まだそのことがわかるのは、  
むずかしいかもなあ」



いけから、さかながはねて  
まあるいはもんが、ひろがりました。

ぷよよんくんは、しかくくなろうと、  
しかくいひとと、なかよくなりました。  
しかくいひとと、いっしょにあるいてみました。  
しかくいひとのまねをしました。

でも、なかなかしかくはなりません。



ぷよよんくんは、だんだんあせってきました。

そんなとき、ところてんクンと、ともだちになりました。

ところてんクンは、ぷよよんクンとおんなじで  
からだがぷよぷよしているのに、  
はじっこがきちんと、しかくいのです。

「なにかひみつがあるのかい？」  
ぷよよんクンは、ところてんクンにききました。



「ひみつというほどじゃあ、ないのだけれど」  
ところてんクンは、ちょっとこまったようにいいました。

ところてんクンのきょうだいが、うまれてくるところにあんないしてくれました。

しかくいはこちらからでてくると、しかくなるのです。



それをみた、ぷよよんクンは、いいました。  
「これだ! これだ! これがひみつだったんだ!」

ところてんくんは、ふあんそうにいました。

「ぼくたち、ところてんは、こうやってうまれるけど。  
ぷよよんくんが、こんなところにはいるのは  
あぶないんじゃないかなあ？」



ぷよよんくんは、ゆずりません

「ぼくは、しかくくなりたいんだ!  
すぐにでも、しかくくなりたいんだ!  
なにがあっても、きっちりに、なりたいんだ」



ふあんそうにみまもる、ところてんたちのまえで、  
ぷよよんくんは、しかくいをはこをぐりました。



ざくり

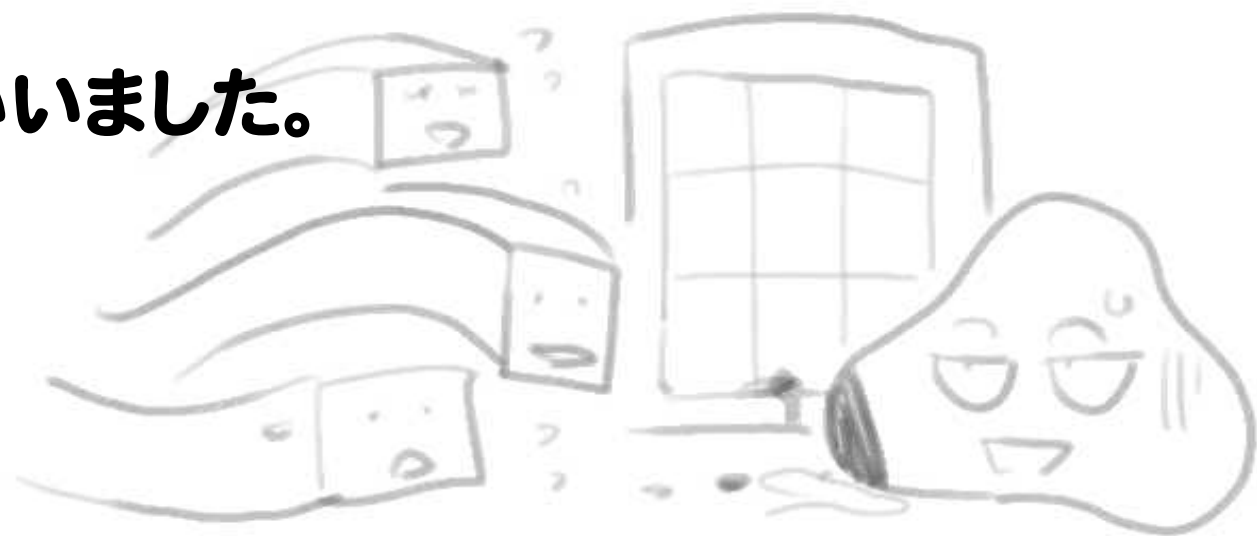
「だいじょうぶ!? だいじょうぶ!?!」

ぷよよんクンのすがたをみて、ところてんくんは  
おおあわてで、さげびました。

「うん・・・  
やっぱり、しかくくなれなかったね」

ぷよよんクンは、  
あおざめたかおで、いいました。

ところてんくんたちは  
はらはらしています。



「しんぱいしないで、だいじょうぶだよ。  
きょうは、ぼく、ようがあるんだ、じゃあ、またね」

あるいていく、ぷよよんクンのからだから、  
ぽたぽたと、なにかが、したたりおちていきます。

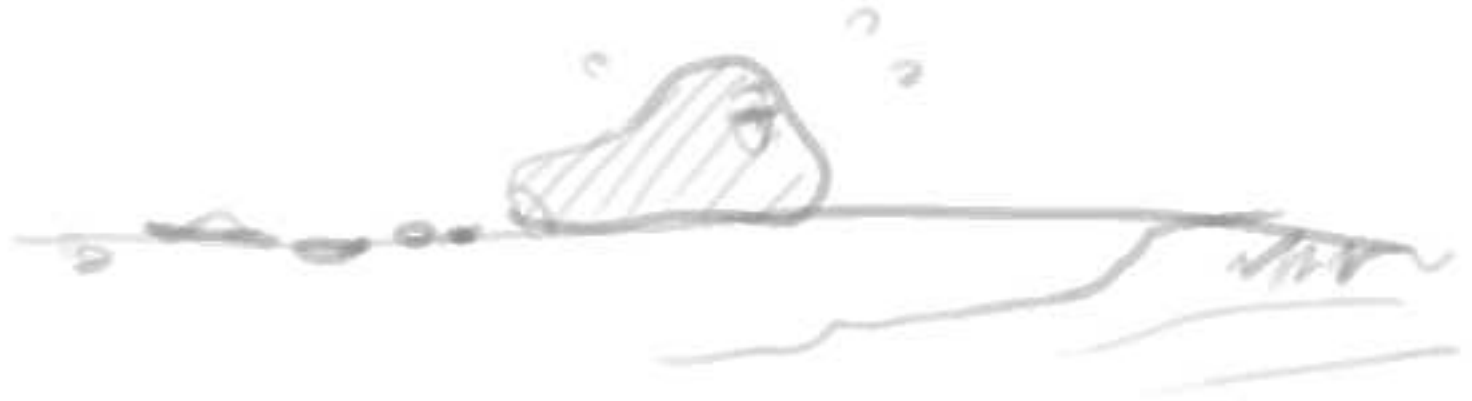
ちっとも、だいじょうぶじゃあ、ありません。



きっちり、しなきや。

ぷよよんくんは、そうつぶやいて、  
あめのなかをあるいていきました。

あるくたびに、からだから、  
なにかがぽたぽたと、こぼれていきます。



ふらふらとして、つまずいて、ぷよよんくんは、  
かわのなかにころげおちました。

かわのみずに、どんどんながされて、  
ぷよんクンのきずぐちからは、  
どんどん、なにかがこぼれだしていきました。

「ああ。  
ああ。」

ぷよんクンは、つぶやきました。



「けっきょく、ぼくは、まるくなれなかったのか。  
けっきょく、ぼくは、しかくなれなかったのか。  
けっきょく、ぼくは、さんかくにもなれなかったのか。」

ぷよよんくんはつぶやいて、めをとじました。



「もっと、きっちりしなきゃ、いけなかったのに、なあ」

ふっと、からだがかるくなって、  
だれかにかかえられて、そらにうかんでいました。

そのひとは、まっしろなからだで  
せんじんのおじいさんに、ちょっとにていました。

ふわふわとゆられながら、ぷよよんくんは  
「あせらず、ゆっくりって、いわれたのに、なあ」  
そんなことをおもいだしました。





「ぼくには、もうかたちが  
なくなってしまったんですね？」

ぷよよんくんがたずねると、  
おじいさんは、やさしく、  
だけど、すこしさみしそうに、こたえました。

「そうだな。でも、よくがんばったね」

そのこたえをきいて、ぷよよんくんは  
じっとなにかをかかんがえて、そしていいました

「さいごに、ぼくのからだか、  
しかくくなれたかどうか、みたいんです。  
そこに、つれていってもらえませんか？」



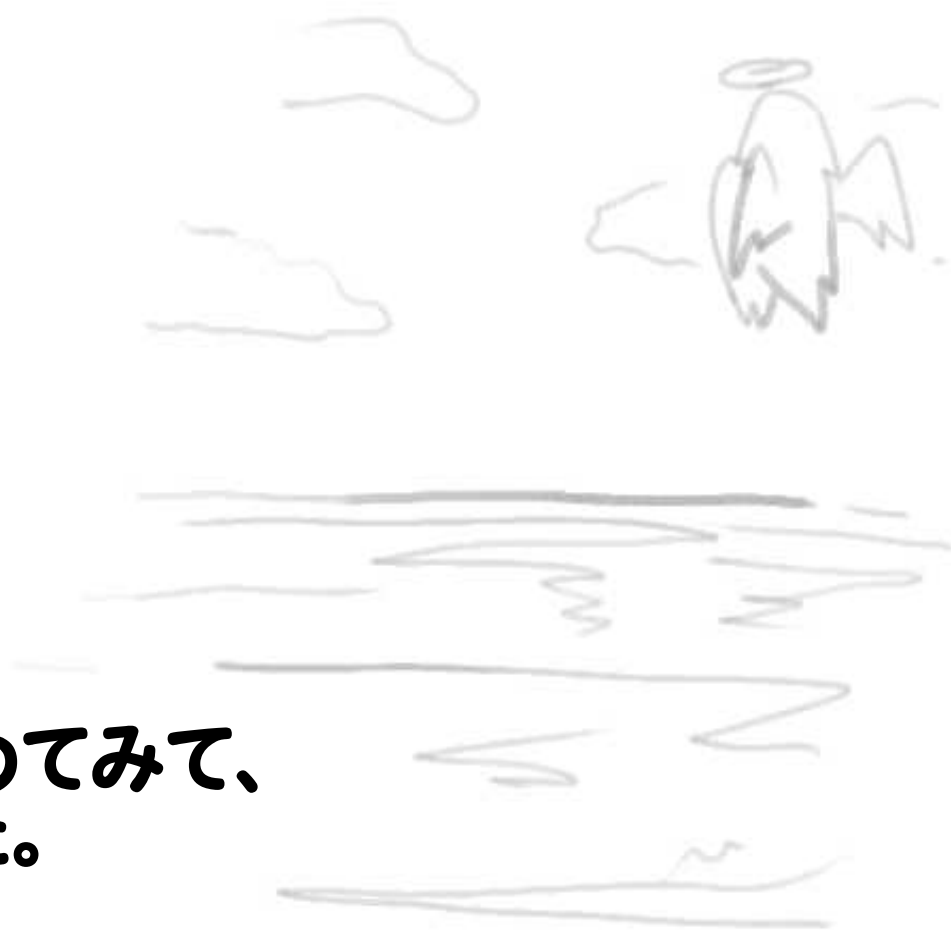
おじいさんは、ぷよよんクンのたましいを、かかえたまま  
うみにきました。

「いま、きみのからだは、  
この、ひろいうみのなかに  
とけこんでいるんだよ」

おじいさんは、いいました。

ひろいひろいうみを、はじめてみて、  
ぷよよんクンは、いいました。

「あおくて、ひろくて、たいら。  
ちょっと、あんしんしました。  
むかしのぼくよりも、ちょっとだけ、きっちりしています」



おじいさんは、ちょっとにっこりわらって、いいました。  
「しっかりつかまっているんだぞ」

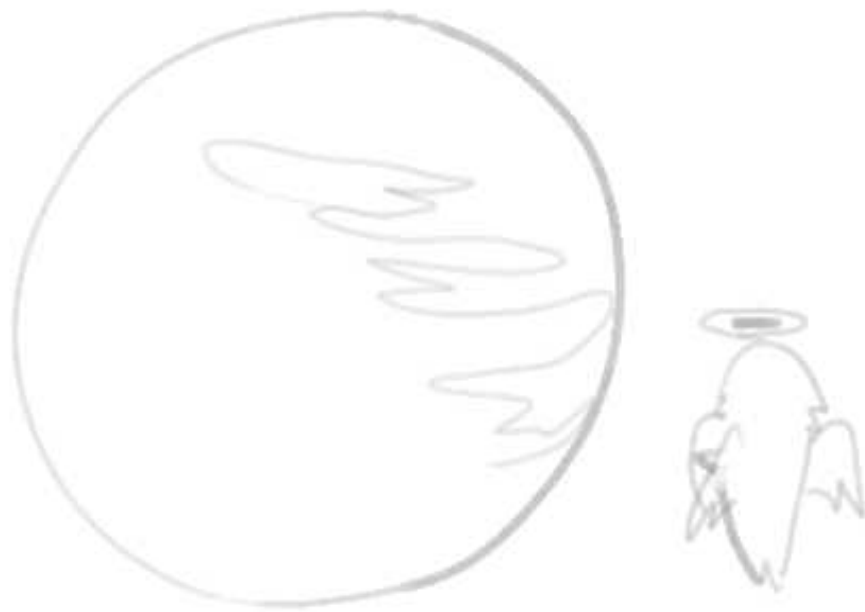
そういと、おじいさんは、  
ぐんぐんたかくにのぼっていきました。

ふよよんくんは、あんまりはやいので、  
めをつぶって、ひっしでしがみつきました。

からだがないのにしがみつくていうのも、  
へんなはなしですけどね。



「さあ、めをあけていいぞ」  
おじいさんのことばに、めをあけると、  
そこには、まあるいたまがありました。





くらいせかいに、あおいたま。

それは、あおくて、ふしぎないろをしていて、  
いままでにみたなかで、いちばんきれいなまるでした。



びーだまよりも、ほうせきよりも、  
きれいなまあるいたまでした。

**「ぼくのからだは、このたまになつたんですか？」  
ぷよんくんは、たずねました。**



**「そうだね」  
おじいさんは、いいました。**

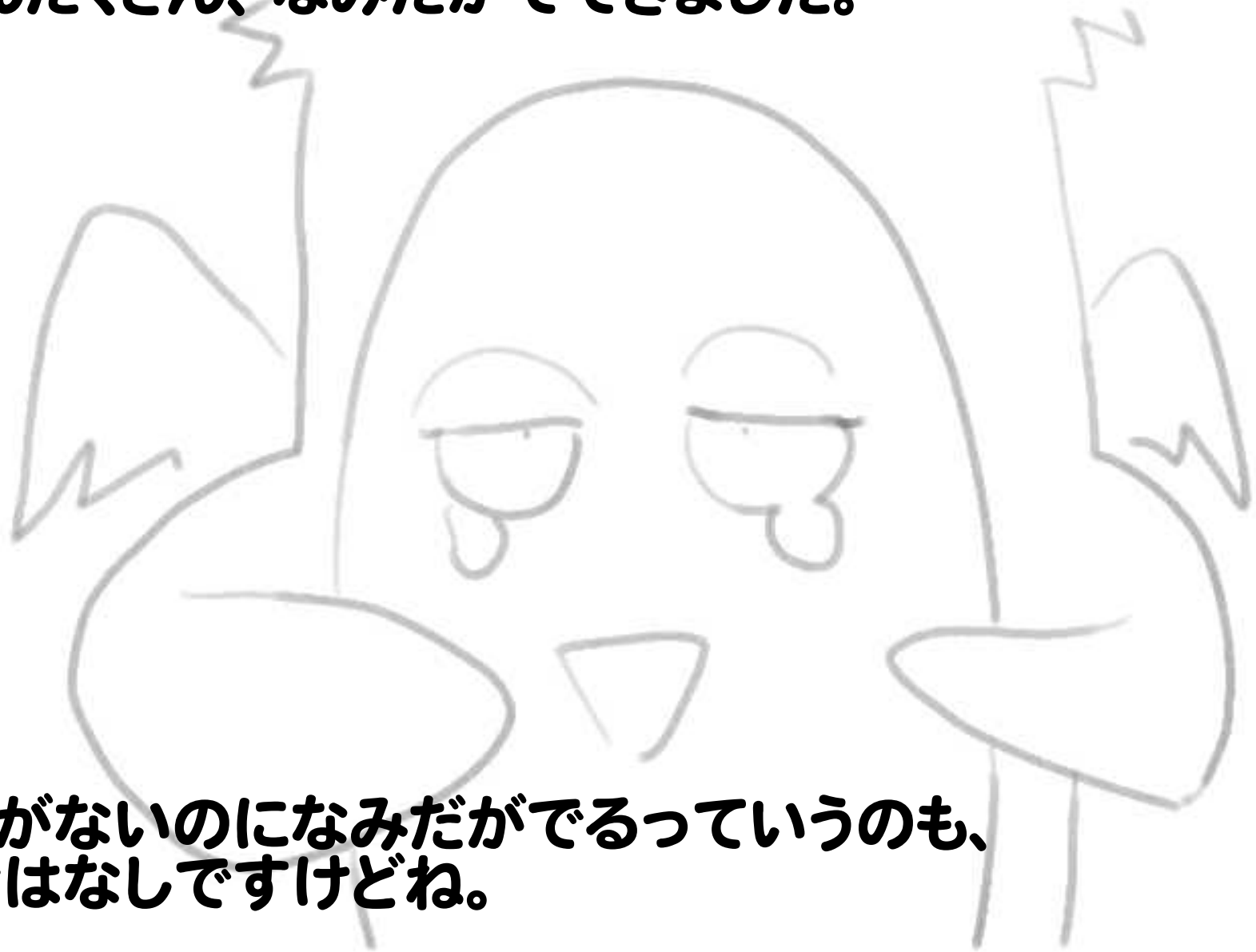
**「ぼくのからだは、このきれいなたまになったんですか？」  
ぷよんくんは、もういちどたずねました。**



**「そうだね」  
おじいさんは、もういちどいいました。**



ふよよんクンのめから、なみだがでてきました。  
たくさんたくさん、なみだがでてきました。



からだがないのになみだができるっていうのも、  
へんなはなしですけどね。

**「おじいさん。ここに連れてきてくれて、ありがとう」**

**ぷよよんくんは、ちいさなこえでつぶやきました。  
ちいさなこえだけど、しあわせそうにつぶやきました。**



そして、ぷよよんクンのたましいは、  
おじいさんのうでのなかから、  
ふわりと、とけるように、きえていきました。



おじいさんは、ちいさなこえでつぶやきました。

「おつかれさま。ぷよよんクン。  
もう、きっちりしないで、いいんだよ」



**おしまい**